
「ゲゲゲの鬼太郎 第3期」～妖怪ぶるぶるの事件後～

A.I

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ゲゲゲの鬼太郎 第3期」 〱 妖怪ぶるぶるの事件後〱

【Nコード】

N1001C

【作者名】

A・I

【あらすじ】

この物語は、「妖怪ぶるぶる」の事件の後のこと。鬼太郎は、彼女を全裸にして、身勝手にお風呂に入れてしまったことを、後悔して、誤ろうとしたが……果たして結末はいかに？

妖怪ぶるぶるの事件の時、ネズミ男がまさかの妖怪ぶるぶるを食べ物

（おしるこだったかな？ 忘れました。 すいません。）

を、ユメコちゃんに食べさせてしまいました。

その後、ユメコちゃんは体が冷たくなり、ガタガタと震えだしていろいろの側で倒れてしまいます。

鬼太郎は旅館に戻って来た後、すごい妖気を感じましたが、アンテナがこの時3本。

ユメコちゃんに異変が！！

その後鬼太郎は、チャンチャンコをひとまずユメコちゃんにかぶせ目玉のおやじからアドバイスを受けた後、彼女を抱きかかえそのまま旅館のお風呂に直行！！

彼女を全裸にした鬼太郎は、バスタオルでユメコちゃんをくるみ温泉へ入れてあげました。

こうして、ユメコちゃんがしばらく温泉につかっている間にぶるぶるは逃げ出し鬼太郎が、見事に撃退しました。

そして事件が解決してその後のこと。

この2人はどうなったかというと。

ここはゲゲゲハウス。

「あれから体はもう大丈夫？」鬼太郎はあくまりにも冷たかったのを思い出しては、心配しています。

まゝさかで鬼太郎自身もビツクリしたんだ。

「もう大丈夫よ。元に戻れたわ。あの時は寒いどころじゃなかったわ・・・」ユメコは、よく耐えたものだわと言っていました。

鬼太郎も側で腕組みながらうなずいていました。

「意外と体力がユメコちゃんあるのかも・・・

あっ！

でもね・・・1つだけ・・・

僕どうしても謝らなきゃいけないことがある！」

鬼太郎は真剣な顔して言い出しました。

「何？鬼太郎さん、何か私に悪いことした？？」

ユメコちゃんは、不思議そうな顔しています。

「いや、その・・・」鬼太郎は最初、後ろ向いて咳払いしては頬を赤らめていましたが、首を激しくふると、「いいや！僕、絶対君に對して悪いことしてる！！だって、君を全裸にして身勝手にお風呂

に入れてしまったこと・・・ごめん！本当にごめんなさい！もし、許せないのなら、ひっぱたいてくれても、いいから！」

鬼太郎は覚悟を何やら決めています。

ユメコちゃんは、「????それって・・・悪いことじゃないんじゃないの？」

ネズミ男さんにやられたなら話は分かるわよ。

でも、あなたの場合・・・

心底じゃないわけでしょ？

ワケありだもの。

むしろ、私の命を大きく助けてくれたじゃない？

何で私がひっぱたかなきゃ、いけないのかしら？」

と、不思議がっています。

「だって！いや、やっぱりいけないよ。君の全裸を見てしまったことにかわりないもん・・・洋服も全部、脱がしてしまったことにかわりはないんだもん・・・」

鬼太郎はそれだけポツリと言うと後ろ向いて頬を赤らめています。

鬼太郎は覚悟を決めると、首を振り出しました。

「ユメコちゃん！

やっぱり、いけないことしたにはかわりはない！

いくら妖怪退治とはいえ・・

一発だけ。

思い切りバシーンと、やゝってくれ！

僕、目を閉じてるから後は君次第・・」

鬼太郎は言うと自分から目を閉じました。

ユメコちゃんは、「そんな急に言われたって・・」

と、彼女は顔を鬼太郎に近づけました。

ユメコちゃんは本気だということが分かった、少し怒った顔しました。

「確かにあなたは、私を身勝手に脱がしたことは事実・・あなた
がそこまで言うなら・・」

一応、やっちゃったんですものね。

許せない！というのが、気持ち半分かしら・・」

と迷いながらも片手をあげました。

しかし。

「・・・・・・・・」

ユメコちゃんは、頬を赤らめては、激しくその場で首を振っています。

そして、ついに、迷ったあげく、土下座して座り込んでしまいました。

涙をこぼしだすユメコちゃん。

「私には・・・」

私にはやっぱりできない！

もう、いいわよ！

この件については・・・

命を助けてくれた人だもの！

それよりも・・・

命を助けてくれて、ありがとう・・・」

ユメコちゃんはそれだけ言うと、頬を赤らめながら、鬼太郎の頬にそつとキスをしました。

鬼太郎は、「・・・」そつと目を開けました。

鬼太郎は頬を赤らめながらも、「本当にいいの？許してくれるの？後悔しない？」と、聞きました。

ユメコちゃんは、頬を赤らめると「今回は、これでチャラよ！もう一度言っわ。助けてくれてありがとう」鬼太郎さん」これからも、よろしくね」

と、鬼太郎の唇にそつとキスをする、後ろ向くと恥かしそうに頬を赤らめながら、走りだし、家に戻って行ったのでした……

鬼太郎は、頭から湯気がボン！！

まさかの初めてのファーストキスでした……

そして更に数日後のこと。

ゲゲゲハウスの中で、鬼太郎は、お風呂に入りながら月を見ては思い出してしまいました。

「本当に果たしてこれでユメコちゃんだけど、許してくれたんだろうか？あの場合、仕方ないよな」と、少し後悔している様子でした。

目玉のおやじさんは、「まあ、よいではないか！

彼女の命が助かったのが、大きいからう！

そちらの方が、大事であることを忘れてはいかんよ！

お前はどうも、クソ真面目すぎが欠点のようじゃ！

軽く崩す心も、少しは覚えておかないといかんよ！

本人はいいとはつきり頬を赤らめてお前に言っておるんじゃ。

それはのう！嫌いというわけでは、ないんじゃよ！

あんまり気にしてしまうと、今度は逆にユメコちゃんに気にしすぎと言われてしまって、嫌われてしまうぞ！

今のままで、まあ、抑えておけ！

あの時は、作戦の1つとして仕方ないわい！

それに！もう一つ、事件があつたじやろうが！

裸に関連する事件はあるわい！キリがないぞ！

今更、なぐにを！叩かれておらんのじやろう？

なぐに！大丈夫じゃ！心配いらんよ！

お前も心配性じゃのう！」と、笑いながらなしてしまっています。

鬼太郎はユメコちゃんの裸関連については、ある、大事件を思い出しました。

「あゝ！あゝ！あゝ！」

鬼太郎の声は、空へと響きました・・・

鬼太郎は、後で、頬を赤らめては、「僕って、数々、よく考えてみたら、とんでもないことしてる」ということに気づいちゃった。あゝそれのこと、誤らなきゃ・・・妖怪反物事件のあれは・・・最後の時だ。

ユメコちゃんが、妖怪の着物を脱いでくれたんだった！僕ったら、僕ったら平然としてあの時のセリフはなぐんてことを！言ってしまったんだろう・・・「その浴衣は、妖怪だよ。ちゃんと元通りにしてやらなきゃ・・・」なぐんて言ってしまったて！一反もめんからまっつて着替えたユメコちゃんも、僕のせいだ。」

と、突然、切り替えるとユメコちゃんの家、ワザワザ誤りに行っ
てしまいました・・・

鬼太郎は、ユメコちゃんの家の前でお菓子を差し出しながら、それはもう大慌てですべてにおいて、頬を赤らめながらペコペコ状態。

「すみません、すみません。ほんつとにごめんなさい！」と必死で誤る鬼太郎。

しかし、ユメコちゃんは・・・

「だから」

いいのよ。

もう・・・

私、本当に怒ってないわ。

だってあなたの場合は・・・

全然悪気ないですもの。

ね？

本当！気にしないでね！

あっそうそう、1つだけ・・・

妖怪退治の時、仮にあたしを裸にしないと助けられない事情が再びあつたとしたら・・・

その時は、迷わずあなたの判断にお任せします。

だって、妖怪倒せなくなっても、困るでしょ？

場合によっては・・・

そのくらい、私でも分っています。

それだけ・・・

そうね。

あたしの中で、一番のすんごい思い出とするならば・・・

私にとっては、あの事件のことは、よく忘れないわ！

大人になったとしても、一生心の中で忘れないと思うわ。

妖怪いやみの事件の時かしら？

まさかの、あなたまでが、いやみの色気妖術に思い切り、やられちゃって～

あゝそれだけはすごかったわ。後で考えてみたらクスクスでしたけど・
・

でも、心理がね。

あなたの場合は、ネズミ男さんのやらしさとは大きく意味が違いますもの。

悪くなかったわ。

あなたの心の奥底に、隠されたあたしに対する、心はね！

普段言えないことが出てしまったみたいなそんな感じがしたわ。

普段真面目な分ね。」

ユメコちゃんは頬を赤らめるといいました。

鬼太郎は、妖怪いやみ事件で、自分が一体、色気を吸われた後、新事実どうなっていたのか、何も知らずに終わっているんだ。

仲間からもあんまりこの事件については、笑えたしあまりにおもし

るかったし、何だか鬼太郎のセリフも、すごすぎて笑えてくるから
言えないということで、教えてもらっていないようだ。

ネズミ男も鬼太郎を見つめては、不思議そうな顔してしまって、「
あれ〜？

あの後、僕ちゃん、鬼太郎とあの後新事実、一体どうなってたんで
しょ〜

全然覚えてない！

それも、ユメコちゃんったら、僕ちゃんとあれから一週間、口きい
てくれなかったし。

一週間も無視されたし〜

逃げられたし〜

僕ちゃん、散々な目にあったもん〜

こら〜！

誰か、新事実を、おしえろ〜！」と、砂かけと子泣きを追い回して
いたという。

いくら問い詰めても、「ほんとに、おぬし、覚えとらんのか〜？メ
チャクチャ最高じゃったぞ〜」って子泣きじいさんや砂かけはあさ
んからはゲラゲラ後で笑われてしまう始末である。

ユメコちゃんはユメコちゃんて鬼太郎を見ては、頬を赤らめては笑

い出す始末である。

ネズミ男はネズミ男で、だいぶ困り果てているらしい。

誰にもクスクスされちゃって教えてもらえないもんだから鬼太郎も困っていたんだ。

父さんにも、呆れられて叱られちゃうし散々だったらしい。

後で・・・

「へ？ユメコちゃん！ちょっとそれって・・・

ねえ！

いやみ事件の時、あの時、僕一体、何をした？

父さんがね！

怒っちゃってさ、あの事件の後！

「お前は、ネズミ男とあんだだけ猛烈に、ドツタンボタン、激しくやぐりあっておいて！それも、ユメコちゃんをめぐって！取り合いしおって！

まあ、その理由は何なのか、ワッシ、一生、これだけは、教えてやらない！

自分で考えい！ワッシは、あゝの事件が、一番、猛烈に恥かしかったわい！父親として！！

戦闘方法が今までの中で親として言うならばサイテ

前代末門じゃー一生ワシは忘れんぞー！

いやみだけはー！

本当に、何にも覚えておらんのか！！

まゝったく、あれだけ真剣表情でネズミ男とやりあっておいて、信じられんわい！」ってね。

猛烈に呆れちゃって、しばらくあの事件から一週間、僕とマトモに口きいてくれなかったんだもんね

だって僕、本当に知らないんだもん！

僕が、父さんを払い飛ばすなんて！

僕、一体どうなってたんだろうな

砂かけから父さんを払い飛ばした！

それだけ知ってね、僕ね・・

後で・・・・

父さんに謝ったんだよ。

ぺこぺこしてね・・

まゝさか君に対してネズミ男みたいな変な嫌がらせとか、してなかったよね？

色気にやられた後の僕を話してくれ」

と、アタフタ状態で聞いています。

ユメコちゃんは、思い出すと頬を赤らめたまま、クスクス笑い出しました。

「これは、な・い・しよ・よ」

ただ、1つだけいえることは、悪くないあなたの色気ぶりだったわよ。

ネズミ男さんは、見事だったわ。

いやらし〜のがね！

これは、あたしの心の思い出にしておきましょう・・・

じゃあ、また、明日ね！いちいち、細かいことを、気にしないでね！鬼太郎さん！あなたは、いやみの色気をた〜っぷりと吸われた後、悪いことをしていないことだけは、事実よ！

安心して」

また、明日、遊びましょうね！

じゃあ・・・お休みなさい。」

と、頬を赤らめて言うと、鬼太郎の頬にお休みのキスをそつとすると、お菓子を受け取って、クスクス笑いながら、家に入ったのでした・・・

こうして、事件後の誤りは、幕を閉じたのでした・・・

一方、帰り道。

鬼太郎は、歩きながら腕組んでいろいろと、他にもなかっただろうな～と、深刻に考え事していましたが、「どうも～心配することなさそうだな！僕の考えすぎかな！」

と、笑顔に切り替わると、「よし！明日から！また、妖怪退治、がんばるぞ～！」と、意気込むとゲゲゲハウスにスッキリした顔して、帰って行ったのでした・・・

こうして更に2ヵ月後。

今度はユメコちゃんから1つだけ、誤らなくてはいけないことを、思い出しました。

それは、お風呂入っている時に思い出してしまうようです。

「あ～！私も、あつた～！」ユメコちゃんは、叫びました。

ユメコちゃんは、風呂から出て、着替えた後、鬼太郎の家にまっしぐら・・・

ユメコちゃんは、その場で、いきなり、土下座しだすと、「ごめんなさい！鬼太郎さん！

わたしも、最大の経験がありました」

鬼巫女事件のこと！

思い切り迷惑をかけてごめんなさい」

あなたに攻撃してしまったこと！

操られた後・・・

あなたと戦ってしまったこと・・・

これだけ覚えてるの。

ただ、私ね、あなたに何の言葉をぶつけたのかは、覚えてないのよ・
・

今思い出したら、信じられない」

私どうなっていたのか覚えてないの」

本当に、何があったかは分らないけども、あの事件のことはごめんなさい」

と、ペコペコ状態で誤ったのですた。

しかし。

鬼太郎は、「アリヤ〜」で、噴出して、思い出すと、ゲラゲラ笑い出すのでした・・・

鬼太郎は、「しかし、あれも、今思えばな！

敵も、結構、バ〜カだよな〜

僕を抹殺したいんだったらさ〜

ユメコちゃんを鬼巫女にしてまで操るんなら、ワザワザ変装させなくても、彼女自身を操っちゃえばいいものを！

むしろそのまま出てきてくれた方がいいということ。

目だけが操られているとかさ。

その方が、この話は、数倍盛り上がったのにね〜

と、今思えばそう思っかな？

あの事件が僕の中では、一番、すごかったかな〜

だって、考えてみるよ。

・
下手したら、僕、ユメコちゃんに殺されてたかもしれないんだぞ・・・

だから何だかすごい話だったのかも〜」

と、思い出しては、大笑いしています。

「恥かしい！あれだけは言わないで」

私あなたに何を言ってしまったのか、覚えてないし、攻撃したことだけ覚えてる気がするの。

他の人も、教えてくれないんですもの。」頬を赤らめながら言うユメコ。

「おっと！僕に対して言ったあのすごいセリフは・・・

これは、僕の胸の中にしまっておくこうつと・・・」

鬼太郎は、ゲラゲラ笑っていました・・・

目玉のおやじさんは、様子を見ていてイライラ

「え〜い！いい加減にせい！二人とも！！

お互い、迷惑をかけようがなんだろうが、仲がいいことにかわりはないじゃろうが！

困った時は、お互い様じゃよ！

いちいち、そんなこと、気にするのやめ〜い！

ワシから見たらこないだから話を聞いておるだけで、バ〜カバカしいわい！」

と、一発、怒鳴りました・・・

鬼太郎とユメコは一緒になって、「はい！ごめんなさい！」

と、頬を赤らめながら、目玉のおやじさんに謝ったのです。

そしてその後は、今度は鬼太郎と、目玉おやじとユメコちゃんと3人で、クスクス状態になっていたのです・・・

こうして、事件後の心配事は、無事に解決したのです・・・

（終わり）

（後書き）

第3シリーズ戸田恵子さんの鬼太郎の中の「妖怪ぶるぶる」の回を見られた方に、おすすめです。

結構覚えてらっしゃる人も多いのではないのでしょうか？

あの事件の後、鬼太郎は実は、事件当時結構ユメコちゃんを全裸にしてバスタオルに彼女をくるませて、お風呂入れたりしていました（彼女は寒いと言って倒れたまま震えているので・動けません。）

私達から見ればそれは

と見ていて感じたことがありましたので、事件後のエピソードを1つ。

オリジナルで仕上げてみました。

その後の鬼太郎にお風呂入れる準備をされてしまった、ユメコちゃんの気持ちを1つ。

また、鬼太郎のいけないことをしてしまったの、反省心を1つ。

また、2人は、お互い様で、それぞれの家で、風呂に入りながら考え事をしてしまい、いろいろな事件をあれやこれやと、思い出している、お互い様で、反省心を描いておきました。

最後には第3者から話を聞いていた、目玉のおやじから、怒鳴られ

てしまう設定にしております。

楽しんで読んでみてください。

読んでくださってありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1001c/>

「ゲゲゲの鬼太郎 第3期」～妖怪ぶるぶるの事件後～

2011年9月22日20時52分発行